

## 【短い文で解答を書く目的】

### 1. 短い文で解答を書く目的

「記述式試験では短い文で解答を書くことが必要」という考え方にに基づき、「短い文で解答を書く（一文一義で書く）<sup>注1)</sup>」と「記述式試験の合格に必要な重要なキーワードは“短”<sup>注2)</sup>」の資料を作成しました。

短い文で解答を書く目的として2つのことがあります。今回は、この2つの目的について解説します。

注1)：「技術士試験対策・ダウンロードコーナー」の中の「短い文で解答を書く（一文一義で書く）」の資料を参照のこと

注2)：「技術士試験対策・ダウンロードコーナー」の中の「記述式試験の合格に必要な重要なキーワードは“短”」を参照のこと

### 2. 目的1

目的1は、「解答を明確に伝えるため」です。例えば、以下のような文を書いたとします。

I：〇〇により、△△の変位差による□□の損傷が懸念されたが5年後の現在も変状がないことから「本工法は有効であった」と判断できるので、今後は他の現場においても応用していきたい。

これを、「一文一義で書く」と「表現を工夫して書く」を使って書くと以下ようになります。

II：〇〇により、△△との変位差による〇〇の損傷が懸念されたが5年後の現在も変状がないことから「本工法は有効であった」と判断できる。今後は他の現場でも応用していく。

Iの文とIIの文を比較すれば、IIの文の方が内容が明確に伝わるのがわかります。これは、Iの文をIIの文のように短い文で書いたからです。

「短い文を書くこと」すなわち「短い文で解答を書くこと」で解答が明確に伝わります。

### 3. 目的2

目的2は、「解答として書くことを増やすため」です。例えば、次頁に示したような文を書い

たします。

Ⅲ. 検査の不正に関わることは技術者の倫理に反することである。

この文は句点を含めて 28 文字です。次に、この文を以下のように書いたとします。

Ⅳ. 検査の不正に関わることは技術者の倫理に反する。

この文は句点を含めて 23 文字です。Ⅲの文をⅣの文のように短く書くことで文字数が 5 文字減ります。「たった 5 文字」ではありません。「たかが 5 文字、されど 5 文字」です。

Ⅲのような「たるんだ用語（〇〇することである）」で書いた文が答案用紙の中に例えば 5 箇所あったとします。これは、25 文字（5 文字×5 箇所）無駄なマス目を使ったこととなります。

「たるんだ用語とは常に 5 文字」ということではありませんがここでは 5 文字とします。

技術士二次試験での答案用紙は「24 文字×25 行＝600 文字」です。つまり、たるんだ用語で書くことで答案用紙の 1 行が無駄になります。答案用紙の 1 行（24 文字）があれば、解答するうえで重要なことや合格点を取るうえで重要なキーワードを書くことができます。

「答案用紙のマス目を無駄に使うのか」あるいは「解答として書くことを増やすのか」の違いが試験の合否を分けることがあるかもしれません。

解答として書くことを増やすためには、「〇〇することである」のようなたるんだ用語を使わずに短い文で書くこともその一つの方法です。「短い文で解答を書くこと」で解答として書くことを増やすことができます。

なお、「2. 目的 1」で解説したⅠの文の「においても、していきたい」もたるんだ用語です。「においても、していきたい」を「でも、していく」と書くことで内容が明確に伝わります。

#### 【参考図書】

森谷仁著、「マンガでわかる技術文書の書き方」、オーム社、令和4年3月25日

以 上